



復興庁

Reconstruction Agency

「子どもの遊び場」設置事例集

復興庁岩手復興局

趣 旨

- 東日本大震災により、甚大な被害を受けた被災市町村においては、仮設住宅等が学校の運動場や公園等に建設されるなどの理由により、子どもが自由に体を動かして遊ぶ事のできる場所が不足している。
- 民間企業等からは復旧・復興に際して何らかの支援活動を行う意向があるものの、被災地・被災者のニーズを把握できないとの声も聴かれるところである。
- 今般、復興庁岩手復興局では震災後に実施されてきた、子どもの遊び場設置に係る各種事例を取りまとめた。民間企業やNPOなどの関係機関へ情報を提供し、子どもの遊び場の現状と効果を広く周知するとともに、子どもの遊び場に係る支援が更に広がること及び長期的に運営される契機となることを目的とする。

参考：遊び場に係るニーズ

参照：復興庁主催「親子のあそび広場イベント」におけるアンケート調査結果より(787組回答)

質 問	検証概要
思い切り遊んだのはいつ、どこですか？	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <いつ>4人に1人(26.9%)の子どもが数週間以上思い切り遊んでいない ◆ <どこで>幼稚園・保育園・学校が最も多い(41%)
どのようなあそび場が必要ですか？	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 規模及び屋内外に大差はなく、常設のあそび場の需要が高い(92.4%) ◆ 有料でも遊びたいという声が40%
家からあそび場までの距離がどの程度であれば、日常的に利用できますか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 徒歩：20分以内が約94%、自転車：30分以内が約86% ◆ 自動車：30分以内が約89%。遊ぶことができるなら、30分以上かけても参加したいという回答も見受けられる(11%)
<p>【自由形式回答例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 思いっきり遊べる場所がない / 遊ぶところが限られていてかわいそう / 遠出しないと遊ばせる場所がない ◆ 公園が被災したり仮設住宅になってしまったりして近所がない / 校庭と公園が使えない ◆ イライラしやすくなっている / ママが怒ってばかりいる / 大声を出すとしかられる 	

事例一覧

分類	事例	運営	
屋外遊び場	1. 気仙沼あそびーばー	運営主体	特定非営利活動法人日本冒険あそび場づくり協会
	2. 子どもたちが遊び、学び、成長するための安全で保護的な環境づくりプロジェクト	設置	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 等
	3. ぼうけんあそびば「まきぱっこ」	運営主体	任意団体あゆっこ応援団・地域住民 (岩手県「新しい公共モデル事業」)
屋内遊び場	4. 郡山市元気な遊びのひろば「PEP Kids Koriyama」	運営主体	郡山市
	5. やっこいキッズ	運営主体	トーモク株式会社
	6. 福島空港「わくわくらんど たまかわ」	運営主体	福島県玉川村
	7. さんどパーク	運営主体	福島市
	8. ちびっこジム jump	運営主体	特定非営利活動法人いわて子育てネット (国「緊急雇用創出事業」)
	9. コンテナ砂場プロジェクト	運営主体	公益社団法人こども環境学会
	10. スマイルキッズパーク	運営主体	本宮市
児童館設置	11. 「Tカード提示で被災地に児童館を。」プロジェクト	提供企業	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
イベント開催	12. のびのび遊ぼう！おやこひろば	運営主体	P&Gジャパン株式会社 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

事例一覧(特色・詳細)

分類	事例	特色	広さ	経費等
屋外遊び場	1. 気仙沼あそびーばー	地域住民と協力しながら、地元ニーズを把握して完成させた屋外型の遊び場	-	場 所: 地元住民による無償提供
	2. 子どもたちが遊び、学び、成長するための安全で保護的な環境づくりプロジェクト	公園利用者の声を活かした公園整備。アンケートやワークショップ、デザインコンテスト等を実施し、地域の方々と一緒に公園づくりに取り組む事業	-	設置費: 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
	3. ぼうけんあそびば「まきばっこ」	「新しい公共モデル事業」として活動。地権者や地域住民の協力も得て開設された屋外型の遊び場	-	場 所: 無償提供 運営費: 県事業
屋内遊び場	4. 郡山市元気な遊びのひろば「PEP Kids Koriyama」	企業が土地・建物、設備を無償提供、遊具は寄付、郡山市が運営。東北最大級の屋内型遊び場	約1,650㎡	場 所: 無償提供 運営費: 郡山市
	5. やっこいキッズ	建築資材会社トーモク株式会社が自社研修センターの一部を遊び場として設置、無料開放	約66㎡	場所・運営費 : トーモク株式会社
	6. 福島空港「わくわくらんど たまかわ」	空港国内線ビル内に設置された遊び場。毎朝、当日入場券を発券。総入替制(定員80名)	232㎡	場所・運営費 : 福島県・玉川村
	7. さんどパーク	福島市が設置・運営。市内中心部の市民会館1階にあそび場を設置、無料開放	約424㎡	場所・運営費: 福島市
	8. ちびっこジム jump	緊急雇用創出事業を活用し、盛岡市より事業委託を受けて事業実施。遊び場の他にイベント等も実施	約98㎡	場所・運営費: 国事業
	9. コンテナ砂場プロジェクト	外気との直接接触を最小限にしながら砂遊びを出来る環境(大型コンテナ改装)を整備・提供	約18.5㎡	場所(コンテナ・改装等) : 無償提供及び寄付等
	10. スマイルキッズパーク	本宮市が設置・運営。外遊びが制限される未就学児に、遊ぶ機会を提供することを目的として設置	約400㎡	場所・運営費: 本宮市
児童館設置	11. 「Tカード提示で被災地に児童館を。」プロジェクト	「Tポイント」を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社とTポイントアライアンス企業80社の、ポイントを利用した寄付の取組み	約88.61㎡	設置費: 寄付
イベント開催	12. のびのび遊ぼう! おやこひろば	P&Gと公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが被災地の子ども支援として開催	-	運営費: P&Gジャパン株式会社、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

事例1.屋外遊び場

1. 気仙沼あそびーばー

運営主体	特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会 （※2012年9月1日より気仙沼市本吉町寺谷(てらがい)における「寺谷振興会」に移行）		
所在地	宮城県気仙沼市本吉町寺谷8-3	アクセス	大谷海岸駅から徒歩18分(1.4km)
開設日	2011年4月22日	対象	子ども及び地域住民
		料金	無料

創設までの経緯

- ◆ 「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、①子どもの生活圏にあること ②いつでも遊べること ③だれでも遊べること ④自然素材豊かな野外環境であること ⑤つくりかえができる手づくりの要素があること。これら5つの考えを大切にして作られた屋外遊び場。
- ◆ 運営面では、住民と行政のパートナーシップを築くこと、専門職のプレーリーダーがいることを特色としている。プレーリーダーは、子どもが「やりたい」という思いを引き出す環境を造り、遊びを見守り、ケガをしたり困った時に対応するとともに、子どもとのやり取りを通じ、その子の思いを感じ、言葉にすることが出来ない子どもの思いを大人の社会に伝える‘代弁者’の役割も果たしている。
- ◆ 震災直後の2011年4月上旬から準備に着手。まずは、地元のニーズを把握することから始め、徐々に遊び場の必要性への理解を深め、地主による土地の無償貸与と協力を得て実現した。名称も地域の子も達によって名づけられたものである。

遊び場の概要

目的

被災地の子ども達に対し、遊びを通して心のケアをすること

内容

泥んこあそび、水遊び、滑り台、火を使った遊び、工作あそびなど

成果・効果

活動の様子



写真：中西あゆみ

- 震災直後、子どもたちはストレスや不安を抱え、互いに他者への関心や思いやりを持つ余裕がなかったが、遊びながら自らを解放する中で、徐々に関わり様が変わり、子どもたち同士のコミュニケーションが成り立つようになった。
- 日本冒険遊び場づくり協会副代表の天野秀昭氏は「3ヶ月あれば、震災ごっこなどを通して子どもがかなり回復できる。あそびとはその子にとって必要な表現で、震災ごっこはその最たるものである。遊び場は、その子にとっての重要な表現をできる場所。そういう場所さえ確保すれば、子どもは自分のタイミングで自分自身をケアできる」と話す。
- 遊びと遊び場がいかに「子どもの心のケア」について欠くことのできないものであるかを多くの人に知らせる機会、情報の発信源となり、東北地方に遊び場づくり活動が広がっていくモデルとなった。

2. 子ども達が遊び、学び、成長するための安全で保護的な環境づくりプロジェクト

運営主体	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン		
所在地	宮城県石巻市 (①石巻市鹿妻第5公園、②さくら公園、③蛇田団地北公園、④大橋南公園 各公園)		
対象	子ども及び地域住民	料金	無料

創設までの経緯

- ◆ 津波の被害により、壊滅的な影響を受けた石巻市においては、子どもたちが安心・安全に遊べる状態ではない。被害を受けなかった公園には、仮設住宅が建設され、地域における子どもたちの遊び場は減少している。
- ◆ 石巻市都市計画課では壊滅的な被害を受けた公園について、国の復旧事業を活用して復旧に当たっている。それ以外の優先順位の高いと思われる場所について、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに対し復旧支援依頼を行い、市内4箇所の公園の復旧事業に関わった。
- ◆ 事業の特徴は「子どもを含む地域の声を活かした公園整備」である。公園整備に際して、以下5つの手順で進められた。
 - ① 地域の子もたちへ公園づくりに関するアンケート
 - ② アンケートに基づき、公園デザイン案を作成
 - ③ 子どもたちがデザインコンテストで投票
 - ④ 着工
 - ⑤ 公園のオープニングセレモニー

遊び場の概要

目的

子どもたちが遊び、学び、成長するための安全で保護的な環境を整備することにより、日常性の回復に寄与する。子どもたちが、公園の復旧過程において、主体的に関わる機会をもつこと。

内容

公園利用者の声を活かした公園整備を実施

活動の様子



成果・効果

(現在進行中の事業のため、今後調査予定)

3. ぼうけんあそびば「まきばっこ」

運営主体	任意団体あゆっこ応援団、地域住民		
所在地	岩手県陸前高田市広田町黒崎	アクセス	小友駅から車で約7分(5.2km)
開設日	2012年7月28日	対象	子ども(年齢問わず)及び地域住民
		料金	無料

創設までの経緯

- ◆ 平成24年度「新しい公共モデル事業」(岩手県事業)に採択され活動を実施。運営主体であるあゆっこ応援団は、子育て支援センター「あゆっこ」を利用している子育て家庭を中心に任意団体として結成した組織である。
- ◆ 甚大な被害を受けた陸前高田市では遊び場がなく、子どもたちの基礎体力低下が危ぶまれている。そこで、「孫や子どもたちのため」と地域住民や県外の社会人が協力して手作りで遊び場を設置したものである。
- ◆ 2012年10月にはミニハウスが完成。お茶っこや収穫した野菜、果物をもとに料理教室、ウクレレなどの音楽系趣味の教室、勉強部屋などを無料で開放、開催する予定。

遊び場の概要

目的

走り回って、転んで、泣いて、笑って、たくましく育つ場を提供する

内容

泥んこ遊び、水遊び、滑り台、火を使った遊び、工作遊びなど

成果・効果

- オープンから4か月で約1,000人が来場
- 震災後、全国各地の方々から支援を頂いた住民が、今度は自分たちが役に立ちたいと地域の子どものために遊び場の設置に協力。参加した住民からは「力のない自分も社会の宝である子どものために役立てた」と達成感の声が多く聞かれた。
- 保護者の声:「子どもたちは大きな喜びの声を発しながら、元気よく遊んでいる。震災後、嬉しくて叫び声を上げる子どもはほとんどいなかった。」
- 子ども達は、起伏のある地面を上手にバランスを取りながら駆け抜けるようになり、小学生などが未就学児の面倒を見ながら遊ぶ姿が増えた。

活動の様子



事例2.屋内遊び場

4. 郡山市元気な遊びのひろば「PEP Kids Koriyama」

運営主体	郡山市		
所在地	福島県郡山市横塚1-1-1	アクセス	郡山駅から徒歩約15分(1.8km)
開設日	2011年12月23日	対象	6カ月～12歳 ※保護者同伴
		料金	無料

創設までの経緯

- ◆ 株式会社ヨークベニマルが市に対して土地・建物、設備を無償で提供、遊具等は寄附で開設された、郡山市が運営管理する施設。
- ◆ 2011年8月に郡山市が3日間限定で実施したイベント「元気なおおりやま夏のキッズフェスタ」(※)(室内型あそび場)が大反響を呼び、市民から同様のあそび場を求める多くの声が集まったことが設置実現のきっかけとなった。
- ◆ 開設後、放射線を懸念する親から、大反響を得ている。子どもに遊び場を提供するだけでなく、保護者等の子育て支援や親子の心のケアも実施している。

遊びの概要

目的

放射線の影響を懸念し、外遊びを控える子どもたちに、全身を使ってあそぶ機会を提供し、心身の健やかな成長に貢献。子育て支援、親子の心のケアなど

内容

砂場、からだあそびコーナー(エアトラック、ボールプール、ランニングトラック、三輪車サーキット、水あそび場など)、ままごとあそびコーナー、組み立てあそびコーナー、絵本コーナーなど

活動の様子



写真: 中西あゆみ

成果・効果

- 郡山市の総人口約33万人に対し、来場者数は2012年10月末までの10ヶ月間で31万人を突破。子育てに必須の施設として支持されている。心も体も萎縮していた子どもと親のそれを解放し、子どもの心身の健康と、親の子育て支援に多大な貢献をしている。
- 利用者からは、
 - ・ 発育に関するもの
「寝つきがよくなった / ご飯をよく食べるようになった / 身体が引き締まった / 日常の生活サイクルがよくなった / 朝ごはんを食べるようになった。」
 - ・ コミュニケーション向上に係るもの
「他の子どもとコミュニケーションが取れるようになった / スタッフが褒めてくれることで嬉しく思い、自分でやっていこうという意欲が湧く / 7歳の兄と3歳の弟は家で暴れて喧嘩ばかりだったのが、暴れることもなくなった。手をつないで一緒に遊んで、とても仲がよくなった。」
 - ・ 保護者等の声
「子どもの変化や新しい一面に気づけることがある / 子どもの笑顔や元気に走り回る姿を久しぶりに見て嬉しい。」
- 遊びと遊び場がいかに「子どもの心のケア」について欠くことのできないものであるかを多くの人に知らしめる機会、情報の発信源となり、東北地方に遊び場づくり活動が広がっていくモデルとなった。

※ 元気なおりやま夏のキッズフェスタ

日 時 : 2011年8月26日(金)～28日(日)

場 所 : 郡山市「ハーモニーステーション」の一部 約500㎡

主 催 : 子どもたちのPTSD(心的外傷後ストレス障害)を予防するために郡山市や市の教育委員会、医師会で組織された「郡山市震災後こどもの心のケアプロジェクト」

※ 海外の遊具メーカー13ヶ国44社からの遊具および資金面での協力有

- ◆ 放射線への不安から子どもが夏休みも外遊びを控え、心身の成長に影響があらわれることを懸念し、屋内の遊び場を提供するイベントを開催した。

5. やっこいキッズ

運営主体	トーモク株式会社		
所在地	福島県郡山市安積町荒井字打登喜5-4	アクセス	安積永盛駅から車で約3分(2.1km)
開設日	2012年7月12日	対象	1歳～6歳 ※保護者同伴
		料金	無料

創設までの経緯

- ◆ 福島県に本社を置く建築資材会社トーモク株式会社が「震災によって屋外活動に不安を持つ地域住民に対して、屋内あそび場を設置することで、少しでもお役に立てれば」という思いから、郡山市に持つ自社研修センターの一部を遊び場としてリニューアルした。未就学児を対象に無料解放を行っている。
- ◆ 遊び場の提供だけではなく、心理カウンセラーやボランティアによる地域の親に対する子育て支援も実施。

遊び場の概要

目的

放射線の影響を懸念し、外遊びを控える未就学児の子どもたちが、全身を使って遊ぶこと

内容

からだあそびコーナー(トランポリン、ソフトブロック、回転遊具、ままごとあそびコーナー、組み立てあそびコーナー)などの体を動かす機会を提供。地域の親に対する子育て支援

活動の様子



写真: 中西あゆみ

成果・効果

- 近隣住民が気軽に活用でき、震災前には近所の児童公園が果たしていた役割を担い、地域コミュニティの形成に寄与。
- 利用者の声:「子どもが小さいために、遠くのお遊び場まで行くことが難しいため、身近にある当施設は、大変助かる / 気軽に利用できることがよい」という声が聞かれる。

6. 福島空港「わくわくらんど たまかわ」

運営主体	福島県玉川村		
所在地	福島県石川郡玉川村大字北須釜はばき田21 福島空港ターミナルビル3階	アクセス	郡山駅から車で約45分
開設日	2012年10月27日	対象	小学校2年生までの子どもと保護者等
		料金	(大人・子どもとも)100円/回 ※玉川村民及び生後半年までの幼児を除く

創設までの経緯

- ◆ 福島県玉川村において、屋内型の遊び場の設置を検討していたところ、福島空港が場所を提供して、設置に至った。
- ◆ 空港が場所を提供し、福島県玉川村が運営を行っている遊び場。福島県「屋内あそび場確保事業」を活用し、株式会社福島空港が玉川村より委託を受けて事業を実施している。空港に本格的なあそび場ができるのは、世界的にも珍しく画期的な取り組みであり、就航している航空会社からの支援を得ている。
- ◆ 利用者は搭乗客に留まらず、他市町村から遊び場を目当てに訪問する方も多数有。

遊び場の概要

目的

放射線の影響を懸念し、外遊びを控えている未就学児たちに、全身を使ってあそぶ機会を提供する。
不安な気持ちを抱える親の、子育て支援や空港の活性化にも寄与している。

内容

からだあそびコーナー、ままごとあそびコーナー、組み立てあそびコーナー、赤ちゃんコーナー、絵本コーナー など

活動の様子



成果・効果

- 開設後、約6,000人が来場(1回:定員80名×1日:3回開園)。福島空港ビル株式会社 取締役事業部長の伊藤進氏は、「子育て支援の効果はもとより、空港に多くの親子が集まることで、震災後に元気を失っている地域社会全体の活性化にもつながる」と評価している。
- 利用者の声:「冬になると遊べる場所が限られて困っていた。これから寒くなるので、こういった施設があると助かる / 絵本の蔵書量が多く、うれしい / 福島空港は震災後に飛行機の発着数が減り、飛行機を見る時間以外に子どもと楽しむことが難しかった。この施設ができて、子どもと長時間楽しめるようになった。」

7. さんどパーク

運営主体	福島市		
所在地	福島県福島市霞町1番52号 福島市市民会館内1階第1ホール	アクセス	福島駅から車で3分(1.6km)
開設日	2012年9月29日	対象	小学生以下の子どもと保護者等
		費用	無料

創設までの経緯

- ◆ 放射線の影響を懸念し、屋外での遊びを控える子どもたちのため、福島市6月市議会定例会で補正予算の議決後、子どもの育ち・発達に係る取組みを進め、市内中心部にある市民会館1階に屋内遊び場「さんどパーク」を9月29日にオープンした。
- ◆ 子育てに重要な五感を育む大型砂場、バランス感覚を養うトランポリン、滑ったり泳いだりする全身運動のボールプール等設置の運びとなった。

遊び場の概要

目的

屋外での遊びを控える未就学児たちに、砂遊び、全身を使ってあそぶ機会を提供する。不安な気持ちを抱える親への子育て支援

内容

からだあそびコーナー(トランポリン、回転遊具、ボールプール)、大型砂場、ままごとあそびコーナー、ベビーコーナーなど

活動の様子



写真: 中西あゆみ

成果・効果

- オープンから2ヶ月で来場者数は1万人を突破。
- 利用者の声:「子どもたちが遊ぶ姿を見ることができて明るい気持ちになった / 子どもが過ごす場所が少なく、困っていた。この施設ができて本当によかった / 砂は震災以来触っていなかった。一年ぶりに砂遊びを楽しむことができた / これまでは郡山市の「ペップキッズこおりやま」まで行っていたが、やはり少し遠かった。住まいの近くにできてうれしい。」

8. ちびっこジム jump

運営主体	特定非営利活動法人いわて子育てネット		
所在地	盛岡市大通二丁目6-8 セントラルガーデンスクエア 3F	アクセス	盛岡駅から徒歩10分(790m)
開設日	2012年4月29日	対象	3才～小学校低学年の子どもと保護者等
		料金	子ども300円 保護者無料

創設までの経緯

- ◆ 国の緊急雇用創出事業(事業名称「生涯現役・全員参加・世代継承型雇用創出事業、乳幼児体育あそび推進事業」)を活用し、盛岡市より事業受託を受けて運営。盛岡市大通、市の中心商店街に位置し、街中で子どもたちが遊べる貴重な遊び場。
- ◆ 2011年度は沿岸地域において遊び場の出張イベント等を開催。「常設の遊び場を設置してほしい」という声も多く、2012年度より常設として開設。保育士スタッフが常設しており、幼い子どもも安心して遊ばせる事が出来ると好評を得ている。
- ◆ 親子体育あそび教室や沿岸における出張遊び場などのイベントも定期的で開催している。
- ◆ 盛岡市へ避難されている方は入場無料である。

遊び場の概要

目的

生涯現役・全員参加・世代継承型雇用創出、乳幼児体育あそび推進

内容

からだあそびコーナー(トランポリン、ソフトブロック、回転遊具、ボールあそびコーナー、ボールプール、鉄棒など)

成果・効果

- 2012年4月29日のオープンから6ヶ月で4500人が来場
- 利用者の声:
「幼稚園、保育園、小学校にいる時間以外に子どもが過ごせる場所が限られていた。楽しく遊びながら過ごせる場所ができてうれしい / 異年齢の子ども同士で遊ぶ機会ができてよかった / 子どものストレス発散の場になっている。」

活動の様子



9. コンテナ砂場プロジェクト

運営主体	公益社団法人こども環境学会		
所在地	福島市宮代乳児池1-1(福島学院大学附属幼稚園駐車場)	アクセス	福島学院前駅から徒歩5分 (約900m)
開設日	2012年7月31日	対象	子ども
		料金	無料

創設までの経緯

- ◆ 東日本大震災に伴う原発事故以降、子どもたちの運動量減少やストレス増加が指摘されたため、福島学院大学附属幼稚園がコンテナ内に室内砂場を設置。子どもたちには笑顔が戻り、保育者も砂遊びの有効性について再確認をした。
- ◆ 室内砂場の設置には、場所や十分な砂の量の確保、水の使用、清掃等の課題もあり、現場の保育者には大きな負担が伴う。また、放射線量がそれほど高くない地域では、室内砂場の設置まで必要はないものの、できるだけ直接外気に触れないような砂場環境を求める声も大きいところ。
- ◆ このような状況に対して、コンテナ砂場は一定の解決を図ることができるものと考え、こども環境学会所属の研究者 笠間浩幸氏の呼びかけによってスタートした事業である。

遊び場の概要

目的

- ①放射線の影響を懸念する地域の子どもたちに対する砂遊びの機会保障
- ②コンテナ砂場の提案及び提供援助
- ③コンテナ砂場設置後の砂遊び環境研究(砂遊びの様子、保育・子育ての変化等)
- ④遊び環境保障を柱とする被災地支援の継続的・社会的連携システムの構築

内容

コンテナ砂場を設置、子どもの砂遊びをする機会を提供

活動の様子

成果・効果

- 子どもたちに笑顔が戻り、保育者も砂遊びの有効性を再確認する契機となった。
- その後、福島県内の数園が室内砂場造りを実施している。
- なお、コンテナ砂場はあくまで非常時における一時避難的なものであり、同プロジェクトは戸外環境の復活を願い、より多くの人々に福島を思いながら協働することの重要性を訴えるものである。



10. スマイルキッズパーク

運営主体	本宮市		
所在地	福島県本宮市糠沢字石神50 本宮市白沢保健センター内	アクセス	本宮駅から車で約7分(4.7km)
開設日	2012年7月22日	対象	小学生以下の子どもと保護者等
		料金	無料

創設までの経緯

- ◆ 本宮市が、あそびによる子育て支援のために、保健センターの大部分を改築して設置した。
- ◆ 体を動かして遊ぶことで、ストレス解消、体力向上に貢献している。また、親同士、子ども同士の交流も促進され、仲間づくりにも貢献している。
- ◆ 健康運動指導士の資格を有するNPOが運営を委託。親子のあそび方を指導しながら、利用者の健康増進を図っている。複数の子どもを連れている保護者には、地域のボランティアスタッフが子どもを預かり、また、保護者の話を聞いてストレス解消に繋げるなどの支援も実施。

遊び場の概要

目的

放射線の影響を懸念し、外遊びを控える未就学児たちに、全身を使って遊ぶ機会を提供する。不安な気持ちを抱える保護者等への子育て支援。

内容

からだあそびコーナー(トランポリン、ソフトブロック、回転遊具、ボールプール、三輪車サーキット)、ベビーコーナーなど

成果・効果

- オープン以降、来場者数は約2万人を突破。特に夏休みは、1日平均240人が来場
- 利用者の声:「自然が豊かな場所だが、まだ子どもは1才なので山などで遊ぶことができず、家の中しか遊ぶ場所がなかった。ここでは子どもは安心してのびのびと遊ぶことができ、母親も他の親たちと話すことができ子育てが楽しくなった / 孫を連れてきたが、高齢のため自分では孫と一緒に体を動かして遊ぶことができない。ここではプレイリーダーが遊んでくれるので助かっている / 母親の運動不足も楽しみながら解消できる。

活動の様子



写真:中西あゆみ

事例3.児童館の設置

11.「Tカード提示で被災地に児童館を。」プロジェクト

提供企業	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社				
所在地	【宮城】宮城県本吉郡南三陸町志津川字城場41(南三陸町立志津川小学校内) 【岩手】岩手県釜石市唐丹町小白浜314(釜石市立唐丹中学校敷地内)(各88.61㎡)	アクセス	志津川駅より徒歩15分(1km) 唐丹駅より徒歩15分(1km)		
開設日	【宮城】2011年10月1日 【岩手】2012年2月13日	対象	子どもや保護者等、地域住民	料金	無料

創設までの経緯

- ◆ 日本最大の共通ポイントサービス「Tポイント」を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社と、Tポイントアライアンス企業80社の、ポイントを利用した寄付の取組み。
- ◆ 2011年3月12日～10月31日の期間中にカード利用顧客に付与されたTポイント総付与数の1%を1ポイント＝1円に換算した金額を、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社が拠出し、2011年9月に宮城県南三陸町に「南三陸町 みんなの児童館」、2012年1月に岩手県釜石市に「釜石市 みんなの唐丹児童館」の2館の児童館を建設した。

遊び場の概要

目的

子どもの遊び場として活用いただくとともに、保護者や地域住民のコミュニティの場の確保

内容

児童館建設、提供

成果・効果

- 子どもたちの遊び場としてだけでなく、保護者や地域住民が訪れて、世代を超えてコミュニティ形成の場としても活用されている。
- (「南三陸町 みんなの児童館」内 子育て支援センター 主任保育士)「これまでの活動場所は津波で流されてしまった。こんなに居心地のよい空間を支援していただき感謝している。朝から夕方までお母さんたちが気軽に立ち寄り、心の内を他者にしゃべることで着実に元気を取り戻している。子どもたちも、子ども同士で楽しく遊ぶことができている。利用者がお茶を飲みながら穏やかな気持ちで過ごせるように職員4名が常駐し、親子を迎えている。

児童館の様子



事例4.イベント開催

12. のびのび遊ぼう！おやこひろば

運営主体	P&Gジャパン株式会社、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン				
開催場所	第1回：東松島市 第3回：岩手県大槌町	第2回：石巻市 第4回：岩手県山田町(予定)	開催日	第1回：2012年6月2日 第3回：同年12月8日	第2回：同年11月17日・18日 第4回：2013年3月(予定)
対象	乳幼児と保護者等		料金	無料	

創設までの経緯

- ◆ P&Gジャパン株式会社は、被災地の子どもを支援するプログラムを考えるため、2012年4月に保育環境に関する調査を実施。被災3県(岩手・宮城・福島)とその他の地域を比較したところ、被災地では「子どもの生活に制限や我慢をさせていると感じる。」と回答した母親が半数近くに上り、他県を大きく上回った。
- ◆ また、「屋外で体を動かして遊んだり、運動する時間が震災後減った。」と回答も多く、被災地域における子どもの生活が、制限や我慢を余儀なくされており、子どもの遊びが制限されている実態が明らかになった。
- ◆ これを受けて、子どもが思う存分体を動かして遊ぶ機会を提供するプログラムによって継続的に支援することを決定。現地で子ども支援をするセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと連携して、同年6月に宮城県東松島市で第1回「のびのび遊ぼう！おやこひろば」を開催した。第2回目は11月に宮城県石巻市で開催、第3回目は12月、第4回目は2013年3月に岩手県で実施予定。

遊び場の概要

目的

子どもたちが遊び、学び、発達する安全で保護的な環境を確保する

内容

乳幼児を主な対象として、子どもたちが遊びを選べるような環境を設定。からだを動かす遊びのコーナー、想像遊びのコーナー(おままごと)、組み立て遊びのコーナーなどを設置。また、地域の子ども支援団体との協働も取り入れている。

成果・効果

- 第1回目の6月2日には、104組314名が参加
- 利用者の声：「遊ぶ場が少ないので楽しかった。やっと出来てきた公園も寒くなってきたので0才児がいるとなかなか行けない。いい環境で自由に遊ばせられてすごくよかった / とても楽しく参加した。これから寒くなり外で遊ぶ機会が少なくなるので、このようなイベントはすごく良いと思う。」

活動の様子



発行元・照会先

発行元:復興庁岩手復興局 (<http://www.reconstruction.go.jp/>)

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通1-7-25 朝日生命盛岡中央通ビル6階

【照会先】TEL:019-654-6609(代表)

担当:渡部 剛士・菊池 信太郎・山下 一也

作成協力:(株)ポーネルド(調査に係る請負業者)